

## 会 議 録

会議の名称	第 7 回那珂川市文化芸術推進審議会		
開催日時	令和 5 年 10 月 12 日(木) 19:00～21:00	開催場所	中央公民館 講堂
出席者	<p>1. 委員 長津委員、須川委員、柴田委員、箕原委員、森委員、関岡委員 (オンライン)田北委員 (欠席者)鳥部委員</p> <p>2. 執行機関(事務局) 吉岡文化振興課長、藏菌文化振興課文化振興担当係長、 神代文化振興課文化振興担当主査</p> <p>3. その他 株式会社地域計画建築研究所(コンサルタント) 3名</p>		
配布資料	<p>・資料1 ワークショップ開催結果報告</p> <p>・資料2 那珂川市文化芸術推進計画(素案)</p> <p>・資料3 今後のスケジュール</p>		
公開区分	<p>開示 ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">一部開示</span> ・ 非開示 (理由:情報公開条例第 9 条第 2 号に該当)</p>		
<p>議題及び審議の内容</p> <p>1. 第 6 回審議会の振り返り (株式会社地域計画建築研究所より説明) [会 長]: 何かご意見等あればお願いしたい。 [各委員]: 意見なし。 [会 長]: 特に無いようであれば、調査報告に移りたい。</p> <p>2. 調査報告 (1) ワークショップについて (市文化振興課より説明) 別添説明資料 1 のとおり [会 長]: 何かご意見等あればお願いしたい。 [各委員]: 意見なし。 [会 長]: 特に無いようであれば、那珂川市文化芸術推進計画 (素案) の検討に移りたい。</p> <p>3. 那珂川市文化芸術推進計画 (素案) の検討 (1) 全体構成について (市文化振興課より説明) 別添説明資料 2 のとおり [会 長]: 何かご意見等あればお願いしたい。 [各委員]: 意見なし。 [会 長]: 特に無いようであれば、各章についての説明に移りたい。</p>			

(2) 各章について

①第1章 計画の基本的な考え方（市文化振興課より説明）

[会 長]：何かご意見等あればお願いしたい。特に無いようであれば、第2章の説明に移りたい。

②第2章 那珂川市の特徴（市文化振興課より説明）

[会 長]：何かご意見等あればお願いしたい。

[委 員]：博多南駅は住所として春日市にあるが、新幹線が停車するという文章でよいか。また、ミリカローデンの施設の説明がないがよいか。6ページの図の中の言葉の説明も必要だと思うが、これでよいか。

[事務局]：文章の表現や説明文章を加えるかどうかについて検討する。

[会 長]：どのように説明するか。後述として書き込むのか。見せ方としての話になると思う。何かご意見があればお願いしたい。

[委 員]：事前の意見でもお送りしたかもしれないが、4ページの施策的特徴は、なぜその施策が書かれているのかわからない。施策の内容も何が書かれているのかわからない。何を書こうとしたのか意図をお伺いしたい。6ページの文化的特徴で断定的な物言いは気を付けた方がよい中で、受け継がれてきたものと書かれているが、書かれている内容以外は受け継がれてきていないのか。自慢できるという主体は誰なのか。行政がこれをお墨付きという意味合いに捉えられる。何を基準に選ばれたのかお伺いしたい。

[事務局]：施策的特徴は、今後文化芸術と他分野の行政施策が繋がっていくべき項目のリストアップで終わっている状況。次の文化的特徴の1行目の文章は、アンケートの質問の言い方を引用している。今の書き方では誤解されるという意見をいただいたので精査したい。施策的特徴は、広報紙に掲載された、対外的に発信された協定や事業について書いている。見せ方は羅列しているように見えるので、何を基準にしているかなどが感じられるよう精査する必要がある。様々な施策を行ってきて、他分野との連携の可能性があるのもそういった意図がある。文化的特徴は曖昧な表現だったので改める。

[委 員]：施策的特徴は文化的特徴とすでに繋がっているという事か。

[事務局]：例えば5ページのまちの活力アップ事業は観光的施策としてアートを通して地域づくりについて考えている。南畑美術散歩は、南畑の芸術家とともに歩くもの。産業分野になるが、那珂川市の木材を、ミリカローデンリニューアルに使用した。資材として繋がっているのではないか。

[委 員]：リストアップされていることがなぜ選ばれたのか。施策がどういう内容なのか、記載がほしい。ICT教育と書かれているが、ICT教育とはどういう施策なのか、どういう取り組みなのか、今後行う取り組みなのか、どういう特徴があるのかが書かれていないと意味をなさないのではないか。また、文化的特徴はワークショップで出された言葉でも、な

ぜ書かれていてどういう意味があるのか。地域外の人が見たときにわからない言葉が多く、内容について記載する必要がある。

脊振ボーダーレスプロジェクトは書かれていないが、文化的なボーダーレス、自治体間のボーダーレスに繋がるので文化に関わるものである。その他文化芸術に繋がるプロジェクトがあるのではないか。ミリカローデンが改修中だが、その可能性が書かれておらず、新しい取り組みも始まっているのでそちらも示してほしい。

[事務局]：いただいた意見について精査する。

[委員]：第2章がどのような章なのかがわからない。なぜここで那珂川市の特徴を書くのか。話の流れが説明には必要だと思う。全体の流れを作ってこの章はどのような章かわかりやすくする必要がある。

[会長]：出されている言葉のレベルが様々である。文章でより整理ができるのではないか。いくつかグルーピングすることで、次の章に繋げられるのではないか。

[委員]：文化の拠点はミリカローデンであるということは市民全員の認識であるのか。説明が必要ではないか。きちんと説明しないと、その後の内容もわからないと思う。

[事務局]：どこまで書くか、2章まで流れを考えて、ミリカローデンについてわかっている前提で書いているので説明が必要だと思う。2章は文化の施策に繋げるための章だと考えているため、ご指摘の通り、文化という切り口で足りない部分は足すなど対応する。

### ③第3章 計画の構成（市文化振興課より説明）

[会長]：何かご意見等あればお願いしたい。

[委員]：にぎわいという言葉に引っ掛かりを感じる。まちのにぎわいは商工観光系のイメージが強い。立地適正化計画や市長の言葉で市街地のにぎわい創出という言葉で使用されている。一方、心の居場所とは、共生社会や社会包摂に繋がるのではないか。2つがなぜ繋がるのか。みんなの心の居場所であるが、なぜまちのにぎわいに繋がるのか。基本理念は計画全体のよりどころになる大切なこと。2種類のことを言っている。アンケートの中で文化が市民の拠り所になっていることが書かれていることはわかるのだが、にぎわいという言葉が出てくることで違う文脈が入ってしまうのではないか。

[事務局]：ご指摘については理解できるが、商工観光に限定した言葉としては使っていない。人が集まり何か生まれるため、それをもたらすものとしての用語で使用している。ミリカローデンの中でもにぎわいをつくと表現している。本市の立地適正化計画でキャッチフレーズ的に使われていることは理解している。

[委員]：違う使い方をしているのであれば違う言葉にしたほうがよいのではないか。人が集まって何かをすることはにぎわいということと理解でき

る。

[事務局]：用語の使い方は重要である。基本理念のことであり、少なくとも10年は残っていくものなので、十分に検討する必要があると改めて感じている。他の委員の皆さまのご意見も伺いたい。

[会長]：その他、基本理念について意見があればお願いしたい。

[委員]：にぎわいと文化のイメージが繋がらない。違う言葉があるとよい。

[委員]：「文化芸術をみんなの心の居場所に」だけで良いのではないか。

[委員]：市が文化でまちを振興したいのか、文化で人の心を豊かにしたいのか。地域振興であればにぎわいが合っているのではないか。市の思いを聞きたい。

[事務局]：地域振興という考えではない。基本理念の上段を削るという意見があったが、他の自治体の計画を見て同じような内容が書かれている。ワークショップやアンケートで那珂川らしさを出すときに様々な声を聞くと自然という言葉がよく出ていた。那珂川という言葉が自然そのものを意味しているのではないかと考えている。

[会長]：抽象的な理念になる。集まるという言葉はミリカローデンを見ていてもわかる。にぎわいという言葉は違うのかもしれない。

#### ④第4章 施策の展開（市文化振興課より説明）

[会長]：何かご意見等あればお願いしたい。

[委員]：全体も含めて、取り組みの例として項目が上がっているが、言葉の内容がわからないので評価しようがない。今後よりよくしていくべき取り組みなど様々なレベルの取り組みが書かれていると思う。

[事務局]：わかりやすい説明をしたいと思う。

[委員]：「文化芸術活動の環境の充実」内に例として情報の発信が書かれていたが、場の充実に繋がるのか。例の内容は文化芸術活動を行う環境について明記したほうがよいのではないか。

[委員]：10ページで市民へ身近にあるアートと書かれているが身近にあるとはどういう意味か。また、障がいを持つという言葉について、言葉の使い方がどうかと感じた。障がいがあるという言葉に変更したらどうか。

[事務局]：身近にあるアートとは、公共施設に様々なアート作品が置いてある意味合いである。

[委員]：基本施策1と基本施策2の違いがわかりにくい。タイトルからは同じ意味に感じた。

[事務局]：基本施策1は、文化芸術に触れる機会がないという声がアンケートにあるが、実際は様々な方が活躍されていて、身近にあると伝える仕組みが必要であるため設けたもの。もう一つの基本施策2は、文化芸術に触れることが難しい方に向けて外に足を運んで機会を作るという意味合いである。

[委員]：基本施策1は情報発信や広報がメインの話ではないか。アウトリーチ

の内容が入っている理由がわからない。様々な場所として、福祉施設等と書かれているが取り組み例が様々な場所という意味になっていない。取り組みの例は具体的にイメージできるものにする必要がある。身近なアートの紹介について誰が行うかなどイメージしづらい。

基本施策 2 の取り組み例の中にある「社会包摂の視点での文化芸術事業の実施」と書かれているが何も生まれないのではないか。創造の機会を作っていくという話をはっきりと具体的に書く必要がある。12 ページの現状と課題に高齢化で担い手不足と書かれて、相談できる場所の設置と書かれているが、相談できる場所の具体的なイメージがわからない。「現状と課題」と「取り組みの例」がずれているのではないか。

[事務局]：出された意見の整理を行う。

[会 長]：全体を通して見たときに知らない人に対して全体的に説明不足を感じる。ミリカとミリカローデン那珂川の違いなどわからない人に向けて説明するべき。どこで説明するかは検討する必要がある。

#### ⑤第5章 計画の推進（市文化振興課より説明）

[会 長]：何かご意見等あればお願いしたい。

[委 員]：推進スケジュールの中で見直し後実施・廃止と書かれているが、廃止と書かれていると団体が「廃止するのではないかと、悲しい思いをするのではないかと。すべてについて細かくスケジュール書く必要があるのか。取り組みの例なので、すべて行わなくても責任は問われない。細かな事業1つ1つに書かれていて、市が今後大変にならないか。

15 ページの市民ニーズとのずれの解消と書かれているが、どういう意味か。また、下から2行目の「彼ら」という表記の仕方では、ジェンダー的な目線で別の言い方がよいのではないかと。

[事務局]：「彼ら」は訂正する。取り組み例なのでこういった表記の仕方は適切ではないのではないかとという意見もいただいたため、書きぶりについて検討する必要がある。市民ニーズのずれについては、30年前に建てられた文化施設の役割と今後の公共施設に求められる役割にずれがあるのでないかという意味である。そのためミリカローデンリニューアル工事が行われているという意味だった。全体的にもそうだが、説明が足りなかった。

[委 員]：16、17 ページは西暦のみになっている。

[委 員]：15 ページはミリカローデンの改修は西暦とずれているが、令和6年度まで行われるのか。

[委 員]：令和6年度、2024年まで行われる。

[委 員]：第5章のタイトルでいつまでという言葉が使われているが、この言葉でよいのか。

[事務局]：推進スケジュールの部分でリンクする言葉となっている。スケジュールより先にこの文が出て来るので、不思議な印象を受けるので考える

必要がある。

[会 長]: ミリカローデンの説明を「推進体制について」より前に持っていったほうがよい。

[委 員]: 「1. 推進体制」の中に進捗管理が入っている。「2. 推進スケジュール」があるので、推進体制の中の進捗管理を省いてもよいのではないか。

[事務局]: 重複していたため、推進の中の進捗管理については省く。

[会 長]: 資料編については何かご質問があるか。

[事務局]: 2章から5章の市民アンケートの抜粋した内容や団体ヒアリングなどの調査結果を記載する予定。最後に審議の内容を入れる。

[会 長]: 全体を通してなど、その他意見はあるか。

[委 員]: 3ページの計画の位置づけの図にある、上位計画の隣の矢印が下向きな点は違和感がある。

[事務局]: ご指摘のとおり改める。

[委 員]: 19ページ以降の資料編のアンケートの内容で、アンケートはどのように実施したかなど調査概要が書かれていない。

[事務局]: 今後、調査概要を加え作成する。

[委 員]: 資料編でワークショップの比率が他の内容より高いように感じる。

[事務局]: バランスを考える。調査の関係は以前の委員会で3章として出していたが、今回は計画の内容に繋がるように抜粋している。今資料という形で29ページ以降は載せているが、ほかの市町のどの計画でもこのような見せ方をしている。この形はそのまま計画で使う予定で、全体の調査結果は計画に載せるかどうかは事務局内で検討していた。すべて載せると膨大な量になるので、もし載せ方で意見があれば伺いたい。

[会 長]: まち活とはどういう活動か。

[事務局]: 市民のやりたいことを実現に繋げるためにサポートする活動のこと。博多南駅で行っている。まちの活力アップ事業を省略した書き方だが、わかりにくいので内容を書く。

[会 長]: 裂田溝も消えている。

[事務局]: 全体的な部分で意見をいただいた。大きくは2章の位置づけがわかりにくく、唐突感があること。固有名詞などの補足説明が必要であるとの指摘をいただいた。資源の解説を若干入れていくことで形にしていくことも考えたい。

[委 員]: 計画全体はこれくらいのボリュームがちょうどよいと思う。文言のわかりやすい精査はこれから行うと思うのでお待ちしている。

#### 4. その他

今後の進め方（市文化振興課より説明）

別添説明資料4のとおり

[会 長]: 以上をもって第7回那珂川市文化芸術推進審議会を閉会する。